安心して泊りに来れるショートステイを目指して

社会福祉法人　斉慎会　　特別養護老人ホーム　西貝の郷
（ショートステイ）
介護職員　　山川　梓

ショートステイとは…

ご利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送る事ができるよう、孤立感のかいしょうや心身機能の回復だけでなく、ご家族の疾病、冠婚葬祭や出張、介護による身体的・精神的負担の軽減などを目的としている。

<課題1>

特養併設型のショートステイのため、時間帯や場面によって関わる職員が異なることで情報共有が出来ていなかった。

〇結果

- 対応がまばらになり、ご利用者の生活環境に沿った対応が行えていなかった。

- 様々な場面でのリスクマネジメントが出来ていなかった。

●情報共有と対応の統一化

<取り組み>
・職員間で課題を共有し対策の提案や協力の依頼。

・情報共有を改善するため、基本情報の更新や掲示板・ラインワークスの活用、夜間申し送り表の作成。

・ご利用前のアセスメント時の聴取内容を強化。

○成果と評価

- 多職種との情報共有の強化と対応統一に繋がった
- 安心して過ごせる環境を整える事ができた

●リスクマネジメント

<取り組み>
・夜間帯の排泄間隔・動向確認、転倒防止のため、眠りスキャンの導入

・荷物の渡し忘れ減少の為、持参した衣類等は紙のチェックシートから写真での管理へ変更。

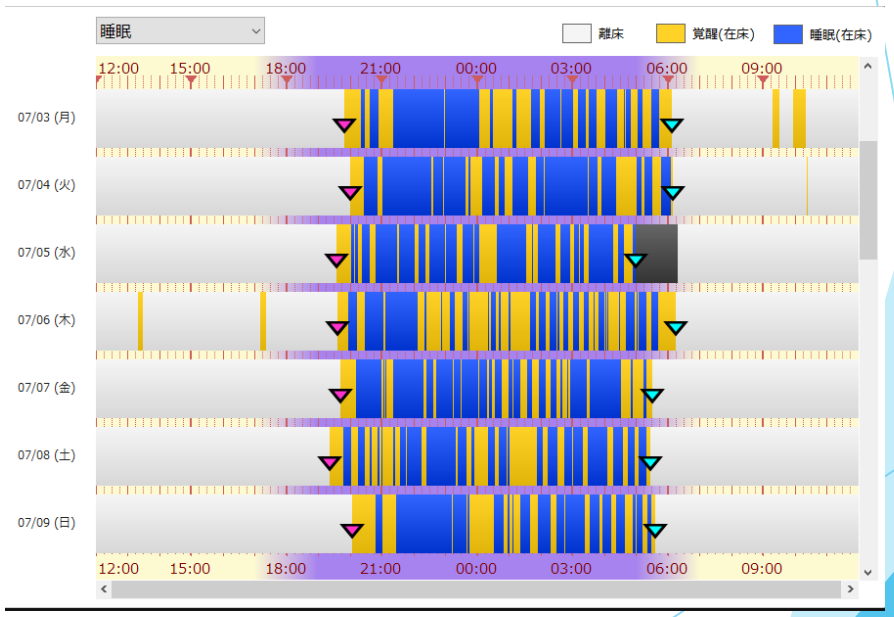
・薬関係は看護職員がチェック表を作成し管理。

<眠りスキャン>

<睡眠データ>

良眠時

不眠時



○成果と評価

- 夜間の睡眠を妨げないタイミングや回数での排泄介助
- 眠りスキャンを導入することで転倒等のヒヤリハットの件数が減少
- 共通の認識で荷物チェックが行えるようになり返却忘れの減少に繋がった

<今後の課題>

- 情報共有するにあたって確認個所や記録が増えてしまい、業務が圧迫してしまう事があった。限られた時間の中で情報共有と対応の統一化を継続していくために書式の見直しや簡素化していく必要性がある。

<課題2>

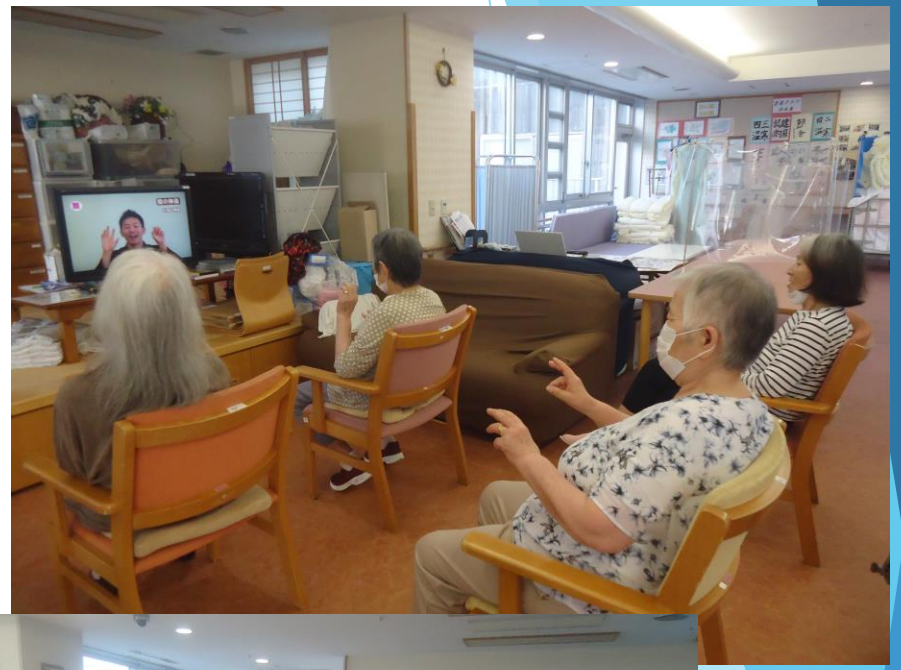
- ショートステイ利用後、「足の浮腫みや歩行状態が悪くなった。」「体を動かす等の活動を増やして欲しい。」とご家族よりご指摘や要望を頂いた。

<取り組み>

・レク活動の充実化の為、個別活動の他に全体で行う体操・散歩やゲーム、おやつ作りの企画。音楽療法への参加。

・活動しやすいようスペースの確保や物品の充足等の環境整備。

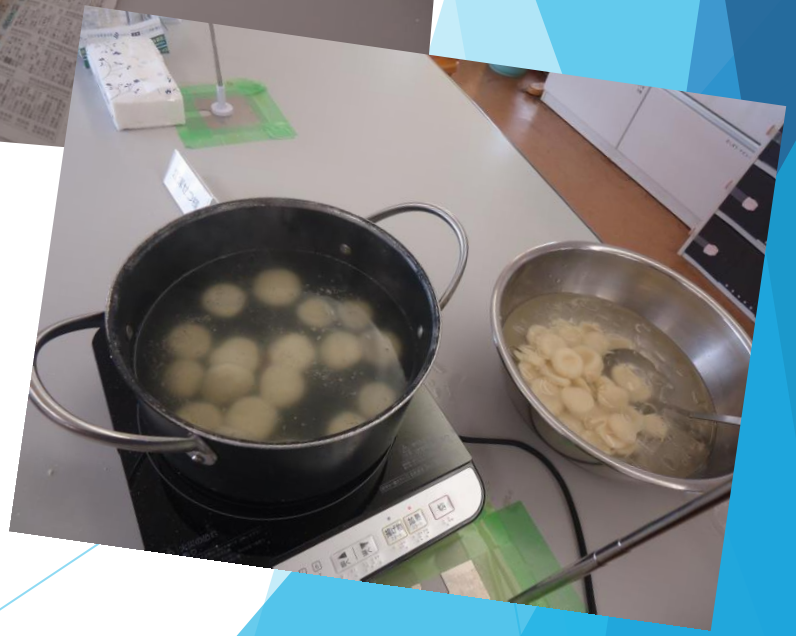
<体操>



<レクリエーション>

<音楽療法>

<おやつ作り>



○成果と評価

- 生活にメリハリができ、リハビリや浮腫み防止に繋がった
- 気分転換になりご利用者の笑顔が増えた
- ご利用者同士や職員との交流やコミュニケーションの時間が増えた

<今後の課題>

- 日によって利用人数が異なり、また安定した人員の確保が難しく、計画通り実行するのが困難であった。人員や利用人数に左右されないよう継続して実践できる範囲で計画を立てていきたい。

<まとめ>

今回は二つの課題を中心に問題解決に努めたがその中でまた新たな課題も見えてきた。今後も課題を一つ一つ解決して、安全に安心して楽しく過ごして頂けるよう対応を行っていきたい。また、ご利用者やご家族にショートステイを利用するなら“西貝の郷がいい！”と思って頂けるようなショートステイを目指していきたい。

ご清聴ありがとうございました。